

1. 事業実施の背景

近年、高機能の発達障害者への支援において、社会的自立を支援するための福祉サービスの充実が大きな課題となっている。高機能自閉症スペクトラム等の発達障害のある人たちの中には、社会参加や就労などに対し、その障害特性に応じた何らかの支援を適切に行えば地域の中で普通に暮らせる人たちが多くいると思われるが、これらの人たちに特化した障害福祉サービスの整備はまだ十分であるとは言えない。全国的にみると、各地で高機能の発達障害のある人たちに対するサービス提供事業所が立ち上がってきているものの、その支援のあり方についてはどこの事業所も手探りの状況ではないかと思われる。その理由としては、支援者側に発達障害の知識や支援の経験が乏しいということがあげられる。最近では、幼少期より発達障害の診断がおり、それに特化した支援を受けながら成長している人が増えてきたが、20代以上の人たちの中には、生きづらさを抱えながら成人になり、二次障害を発症してから発達障害の診断がおり、障害を受け止めきれないまま日々の生活をしている人が多く見られる。また、在宅生活が長引き、生活リズムが整わず、働く（生きる）意欲が低い状態で生活している人も多く、就労移行に乗って行けない人たちの行き場が限られていたり、福祉を利用し始めても馴染めずに、結局在宅生活に戻っているケースもある。中には、福祉への不信感が生じ、福祉との繋がりが切れてしまう場合もあり、そのような場合は、結局家族が抱え込むしかなくなってしまうのである。そのような人たちの支援には、高い個別性と専門性が必要であり、それを満たしている人材がどの事業所でも不足しているのではないだろうか。

社会福祉法人グローでは、滋賀県の委託を受けて、平成17年度からグループホームのフレームを使った高機能自閉症地域生活ステップアップ事業を実施してきた。その実践から、日中の場の確保の必要性や、日中の場と生活の場での統一した対応による支援の必要性等の課題がみえてきた。そこで、平成24年度から平成26年度までは、発達障害者自立生活支援システム構築事業を受託し、自立訓練（生活訓練）と宿泊型自立訓練のフレームを使い、就労準備訓練と生活支援を一体的に行なうと共に、有効なアセスメントや支援プログラム、人材養成モデルの開発、障害福祉サービス事業所の検討等を行ってきた。そして、平成27年度は、発達障害者自立生活支援プログラム普及事業を受託し、3カ年で積み上げた成果（支援プログラムやアセスメントツール等）を、県内の障害福祉サービス事業所に広く普及していくべく、まず各事業所の発達障害者の受け入れに関する実態調査を実施した。その後、各事業所を訪問し、意見交換や困難ケースの聞き取りを通して、ジョブカレのアセスメントツール等の説明や支援方法の提案や助言等を行なった。平成28年度は、発達障害者自立生活支援事業と名称を変更し、引き続き支援プログラムやアセスメントツール等の普及を行い、さらに県内各圏域の自立支援協議会（発達障害者支援部会）に参加し、意見交換や情報共有に努めた。平成27年度から平成28年度にかけて事業所を47件訪問し、発達障害者の受入状況や、利用者本人の課題、支援者の課題等を聞き取る中で、各事業所で困難ケースに苦慮しながら対応している様子が見えた。そこで、さらなる受皿の整備拡大を図るため、支援者のスキルの向上や、他事業所同士の意見交換の場が必要なのではないかと考えた。

2. 事業目的

これまでのジョブカレでの取り組みで得られた成果と知見を多くの事業所と共有するとともに、困難事例を抱える事業所等のケース検討会を開催し、支援者のスキル向上を図り、発達障害者の受入促進につなげる。さらに、課題の検討を通して、ジョブカレの現プログラムを見直し、より実際の課題に即したものにブラッシュアップを図る。また、地域における自立した生活に必要な支援ネットワークを構築していくことを目的とする。

3. 事業内容と今年度の実施状況

今年度の事業内容と実施状況は、以下の通りである。

(1) 就労・生活支援プログラムの普及

《概要》

①平成27年度、28年度から引き続き、事業所等を訪問し、ジョブカレでの取り組みを共有し、意見交換を行なう。また、前年度までに訪問した事業所の中で、困難事例を抱える事業所に再度訪問し、ケースの経過の聞き取りや助言を行なう。

②勉強会を開催し、困難事例の検討を通して、アセスメントのポイント等を普及する。

③より効果的な支援に向けてプログラムの改良を行なう。

《実施状況》

①今年度、新たに訪問した事業所は10件。事業種別の内訳としては、就労移行支援3件、就労継続B型3件、自立訓練（生活訓練）2件、その他2件である。また、困難ケースを抱える事業所には再訪し、ケースの現状確認、意見交換等行なった（7回）。訪問の中で聞き取った困難ケースの内3事例を、ジョブカレの主催する勉強会の事例として取り上げた。事業訪問の中で聞き取った内容は以下の通りである。

○本人の課題

- ・ルーティン作業にも関わらず、次に何をしたらいいかわからず、ぼーっと立っていることが多い。
- ・毎日同じ質問をしに来る。
- ・家族が障害のことを理解してくれない。
- ・自分の思いを発信できない。自分で決めることができない。
- ・何事にも興味が持てない。
- ・気になること（他利用者の発言等）があると、通所ができなくなる。
- ・自分の意に沿わないことがあると攻撃性を見せる。
- ・自分の興味のあることに熱中しすぎて、通所がおろそかになる。
- ・生活リズムが整わず、遅刻、欠勤が多い。
- ・作業が雑である。

○事業所の課題

- ・積みあがらない人に対して、作業のステップアップをどう組み立てていけばよいかわからない。
- ・本人は流暢に話しをするのだが、つじつまが合わないことが多く、意味を理解するのが難しく、意図がくみ取れない。
- ・家族支援の方法がわからない。
- ・言語性の低い人をどう支援したらよいかわからない。
- ・課題が生活にあるが、生活面が見えにくく支援できない。
- ・あいまいな作業（汚れ落としや清掃等）の支援が難しい。
- ・目標と現実がかけ離れている人に、どうやって現実をわかってもらえばよいか。
- ・自分の意に沿わないと、悪態をついたり、通所しなくなったりするので、対応が難しい。
- ・本人のルールを押し付けて来るので、対応している職員が疲弊する。対応できるスタッフが限られる。
- ・作業に時間がとられ、一人一人ていねいに支援できない。

②今年度も含め3年間に渡って県内の事業所を訪問し、ケースの聞き取りや意見交換を行なったが、聞き取りの中で、①で挙げたような課題が昨年度以前からよく挙げられ、各事業所が共通する課題を抱えていることがわかった。またその課題に対して、それぞれの事業所が模索している様子が見られた。そこで、今年度は勉強会を開催し、困難ケースの検討を通して、共通する課題に対する意見交換を行い、発達障害に関する学びを深める場を企画した。さらに、事例提供者が、事例検討の中で挙げた意見を参考にその後の支援を行ない、次の勉強会の時に経過報告をすることで、出席者全員が、検討した支援の効果を確認できるようにした。

勉強会の案内を、福祉事業所、教育機関、就労支援機関、相談機関、医療機関を中心に約200件配布した（資料1）。

勉強会の内容詳細は以下の通りである。

研修名	発達障害者支援勉強会
日時	平成29年7月13日、9月21日、11月30日、平成30年2月22日 (4回シリーズ) 全日 18:00~20:00
講師	京都教育大学 教授 佐藤克敏氏

【第1回】平成29年7月13日開催

参加者	27人
事例内容	事例提供：自立訓練（生活訓練）、宿泊型自立訓練事業所 30歳代の男性。広汎性発達障害の診断。4年生大学卒。自分なりの決まったこと（ゴミをまとめる、ペットボトルを洗う等）をしてからでないと次の行動に移れず、時間を守れない。また、手洗いを頻繁に行なうことや、体を長時間洗うことでかなりの時間がかかり、就寝時間がずれこむことや、支度に時間がかかることで通所が滞り気味であった。本人は、就職したいという希望は口にするが、実家に帰れば何とかかなるという思い

	<p>もあり、生活リズムを整えることや服薬をきちんと行なうことの支援に対しては否定的で受け入れなかった。そこで、母と連携して、本人に無制限に渡していた生活費の支給をやめ、定時に通所できたら1日1000円の生活費を渡すという取り組みを始める。就労経験があるので、働いて（通所して）お金を稼ぐという感覚を取り戻してもらいたい狙いもあった。15時定時から始め、半年以上かけて13時定時まで早めることができた。定時に来られるようになってからは、休むことなく毎日通所できるようになり、生活に支援が入ることにも抵抗がなくなってきた。</p>
検討課題	朝から通所できるようになる。
検討内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 支援が階段式になりがちだが、それだとおいてけぼりになる人も出てしまう。 ・ 「定時から働かなければならない」という働き方をやめてみる。 ・ できる力はあるので、枠があると安心して過ごせるのではないかな？ ・ 本人の時間枠と社会の時間枠のすりあわせをしていく。 ・ 失敗体験から確認行為がきているのではないかな。 ・ 見切りをつけて次の行動に動いているように思うので、見切りをつけるきっかけが何かを探る。また本人の意思を確認しながら妥協点を探る。 ・ 本人の困り感が見えない。 ・ 自己決定をしてきていないのではないかな。 ・ 強迫行為をとめるのはダメなのではないかな？こだわりへの歩み寄りが必要ではないかな。 ・ 動機やモチベーションへの寄り添い。成功体験の積み重ねが大事。 ・ 時間通りの行動は、やらされている感だけが残るのでは？ ・ 主体的な行動、意思確認が大事ではないかな。 ・ 出勤までの支度の時間は、本人が決めた「やらなければいけないこと」を絵カードにして動いてみる。 ・ 時間の短縮は、スモールステップで行なう。 ・ 通所できた時の報酬アップ。 ・ 強迫症状に目がいきがち。 ・ 就労に目を向けすぎない。 ・ モチベーション、楽しめることをきっかけに行動の促しをする。（何時に来たらもっと人と話せる、好きなことに使う時間が増える等） ・ 報酬アップをはかり、それを楽しみに使えるようにする。 ・ 時間の割り振りを見えるように行なう。 ・ 一定できたら、ご褒美をあげる。（例：洗剤使いたい放題） ・ 行動の時間割をパズルのように組み替えて、時間の短縮を図る。
講評	<ul style="list-style-type: none"> ・ 報酬の使い途について、あれこれ使い途を考えると、同じ金額でも価値がかわってくる。（楽しみに使えると、価値が上がる） ・ どういうことを目標にするとできそうかを、本人も含めて考えることが大切。 「本人が決める→目標をクリアする→自信になる」というステップ。 ・ 本人の困り感が具体的でない場合は、体験してもらい、知ってもらうことが大切。

	<ul style="list-style-type: none"> ・行動の切り替えのきっかけを色々試してみる。こういう時は来られたというデータの蓄積をする。 ・どんな場面ならできたかを試してみる。何が影響したかを考える。どうなったらできるか確認していく。それがうまくいったら使えるものとして手立てに加える。 ・本人の納得が大事なので、ここまではできそうということを本人が決める。
経過報告 (9月21日 発表)	報酬アップをはかり、それを楽しみに使えるように試みしてみる。本人と話し合い、12:30 から来られたら1日の生活費にプラス500円し、その500円を貯めてスニーカーを買うことを目標にした。7月から開始したが効果がなく、出勤時間に変化がなかった。プラス分の生活費に対しても価値を感じていないように見受けられた。さらに、7月頃から食欲が落ち、8月より生活リズムが乱れ、昼夜逆転し始める。この半年、午後から出勤することが安定しており皆勤であったが、急に遅刻、無断欠勤が頻発し始め、1日1000円の生活費ももらえていない状況。生活リズムの立て直しから再スタートしなくてはいけない状態となる。本人に理由を聞いても「わかりません」とのこと。夏バテと今まで頑張ってきた疲労感が相まって、緊張の糸が切れてしまったのかと推測する。また、やらされている感が強かったので、今後は、将来どうしたいか、また今どうしたいかを話し合っ、本人の意思を尊重した支援に変更していく予定。

ジョブカレで使用している、状態評価シート、スキル評価シート（就労移行のための総合支援シート、ひとり暮らしへの移行のための総合支援シート）、個別支援計画に第1回ケースを落とし込んだものを参考資料として配布した。（資料2～5）

参考資料として、状態評価シート、スキル評価シート2種の原本を添付する（資料6～8）。

【第2回】平成29年9月21日開催	
参加者	23人
事例内容	<p>事例提供：就労継続B型事業所</p> <p>40歳代の男性。アスペルガー症候群。大学院卒。英語指導の非常勤講師として働いた経験があるとのことだが、実績は不明。母と二人暮らしで、母亡きあとのことを家族（母と他県在住の弟）が心配している。将来は、結婚し、子どもを持ち、新築の家に住み、ごみの分別をするのが夢。作業の課題としては、指示待ちが多い、自分の中でルーティン化したことしかできず毎回同じ指示が必要、スピードや出来具合にむらがある等。働くことは苦ではない。周囲への気遣いはできるが、質問に対して的を得た答えが返って来ず、的確なやりとりは難しい。また、自分の状態や気持ちを把握することも難しい。就職や結婚に対して、先走った行動をとることがある。支援としては、面談を通して本人の思いを探る、本人に合った作業ポジションへの配置、グループホーム利用の提案等を行ってきた。</p>
検討課題	自立したいが、うまくいかない。
検討内容	<ul style="list-style-type: none"> ・再アセスメント→細分化と構造化→本人参加→組立直す→作業参加→自己評価 上記のことをくり返し、ソーシャルスキルを上げていく。 ・本人の強みであるルーティンを活かして、できる作業を見つける。その際に、本人と

	<p>支援者が一緒に考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・できていること、できていないことを整理する。(出来具合のむら、むらの内容等) ・本人が納得できる目標作り。(目標を作ることに半年かける) ・本人のやりたいことに乗ってみる。 ・本人と支援者の共通の見解を見つける。 ・本人のルーティーンを本人に可視化してもらう。 ・施設外を含む、色々な作業を体験してもらう。(法人内で、本人のできそうな仕事を見つけて提供する) ・本人に具体的に質問をして(食べ物、音楽、趣味等)、再アセスメントを取り、本人をより詳しく知る。 ・英語講師をしていたことから、なじみのある単語帳を使用して、手順を説明する。 ・作業の精度を安定させるような支援を考える(時間帯、日、天気、体調によってムラがでていないか等) ・作業の様子を徹底的に観察し、分析をする。(どんな時にミスするか、どんなところでつまづいているか) →ミスが出ないようにして、他にも生かす。
<p>講評</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本人の向き不向き、状態(本人の好きなもの、得意なこと等)の整理をする。 ・本人に、自分でやったことについて言葉にしてもらい、考えてもらう。 ・本人の質問により、本人の状態がわかる <p>「こうやればいいんですね?」と聞く場合→わかっているのに聞いている。→自信がない。</p> <p>間違ったことを聞いている場合→本当にわからないので聞いている→理解することが必要。</p> <p>作業手順を順序通り言えるか確認してみる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・やった作業を自分で検品してみる。→正しい製品のあり方をわかってもらう。 ・自己評価をしてもらい、他者からの評価と違う部分は面談の中で修正していく。 ・本人の言いなりになってみて、本音を引き出す。その上で世の中のルールと違うことは、正しいルールを伝えていく。
<p>経過報告 (11月30日発表)</p>	<p>支援者・家族が、正しく本人理解をするために、自身の自己理解を促す再アセスメントを行なう。具体的には、精神保健福祉手帳取得のための受診(就職活動の為:本人の理由)、中学時代の先生、母からの聞き取り、本人と面談を行い現状や希望を聞き取っていく等。そこで見えてきたものは、昔からの生きづらさや、可視化できるものでないと理解しがたい特性等。また、一緒に過ごす時間が長いと、今までわかりづらかった本人の考えの傾向や意図が少しずつわかってくることもわかってきた。一般的には理解しづらいが、本人なりの道理があり、それはそれとして尊重していくことの大事さも見えてきた。現在ご本人は、(就職には資格が必要:博士号取得、医者になりたい)資格取得のための勉強に励んでおられるが、それが就職に結びつかないとしても、勉強すること自体に楽しみを感じておられるので、趣味として自由に行なってもらい、それとは別に事業所での仕事には励んでもらっている。今後は、無理に現状の理解や、自己理解を求めず、</p>

	ご本人のやりたいことを尊重しながら、動向を支援者で見守って行く方向。
--	------------------------------------

【第3回】平成29年11月30日開催	
参加者	19人
事例内容	<p>事例提供：特別支援学校</p> <p>20歳代の女性。ADHD。店舗メンテナンスのアルバイトをしている。工作中きつめに注意をされた時、イライラする気持ちが抑えきれず、暴言を吐いたり職場を飛び出すなどの行為がある。本人がイライラしがちな状況としては、自分（自分の障害）を受け止めてもらえない時、父から自分の好きなことを馬鹿にされた時などが挙げられる。支援としては、卒業校の先生の巡回、滋賀県発達障害者支援センターでの面談が行われている。また、職場にも本人を理解してくれる同僚がいる。</p>
検討課題	本人が働き続けるためには、どうサポートすればよいか？
検討内容	<ul style="list-style-type: none"> ・職場と生活のサポートの役割分担をする。 ・イライラの原因を追究する。 ・職場での、障害特性の勉強会の実施。 ・職場に、本人の強み弱み等の情報を共有してもらう。 ・関係機関で会社訪問をして情報共有を密にする。 ・クールダウンできた方法やその時の対応を記録しておき、どうしたら落ち着けるかの振り返りを本人と行なう。 ・感情が爆発してしまった時の、行動の振り返りを行なう。 ・イライラの解消法を探る。(別室でクールダウンする、理解してくれている人に話を聞いてもらう等) ・障害者雇用も考えて行く。 ・本人の取り扱い説明書を作り、それを職場に伝える。 ・段階的に目標を作っていく、可視化できるようにする。 ・社会のルール、マナーを伝えていく。 ・現状維持でもよいのではないかな。 ・家の中での家族の関係性をさらにアセスメントする。(母は父と祖父母のことをどう思っているのか等) ・自分の障害理解がどの程度なのかアセスメントが必要。 ・1日の振り返りをし、できていること・評価を返してもらう。 ・精神の安定のために、継続的な面談が必要。
講評	内容については別紙参照のこと。(資料9)
経過報告 (2月22日 発表)	<ul style="list-style-type: none"> ・職場で本人の話を聞いてくれる人が増え、ほめられることも増えている。それ故か、最近では感情の爆発はなく、落ち着いて仕事に通えている。本人も休まず仕事に行きたいというモチベーションを持っている。時々仕事中に不快なことを言われて落ち込むことはあるが、人前では泣くのをがまんし、トイレに行って泣いている。 ・発達障害者支援センターでの面談は継続。簡単な本を使いながら、障害特性について

	<p>の話をしている。それもふまえて、自己紹介書を支援者と一緒に作っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行政および働き暮らし応援センター（障害者就業・生活支援センター）との連携・役割分担を模索中。特性に応じた定期的な相談支援を担う機関が市町村では不足気味で、結果として地域移行が進まない。
--	--

【第4回】平成30年2月22日開催	
参加者	14人
事例内容	<p>事例提供：精神科デイケア</p> <p>20歳代の女性。ASD、不注意優勢型ADHD。デイケアの利用は週2日の午後のみであるが、疲れやすく、デイケアの翌日はうちでぐったりしている。働いて収入を得たいという希望がある。持病等はないが、子どものころから疲れやすく、特に冬場は活動量が低下して学校にも行けなかった。</p>
検討課題	<p>医療と福祉の連携</p> <p>(今回のケースを福祉に引き継ぐ場合どのような連携ができるか)</p>
検討内容	<p><引き継ぐ時にほしい情報></p> <p>成育歴</p> <p>自己理解度</p> <p>時間やルールを守れるか</p> <p>指示の理解度</p> <p>どういう仕事をしたいか</p> <p>現在の生活状況（家事はしているか、余暇の過ごし方、金銭管理、家の経済状況等）</p> <p>今までした仕事の中でどのような負担があったか</p> <p>苦手なこと得意なこと</p> <p>就労継続AかBどちらを利用したいか、伸びしろを知りたい</p> <p>1週間20時間働けるか</p> <p>自分で通勤できるか</p> <p>異性への関心</p> <p>トラブルがあった場合は、どう対応したか</p> <p>家族との関係（キーパーソン等）</p> <p>医療情報</p> <p>生き立ち</p> <p>疾患に関すること（症状が悪いとどうなるのか、どういう症状がでるのか）</p> <p>どういう時につまずくのか</p> <p>NGワードがあれば</p> <p>鬱についての状況、対処法</p> <p>生活リズム</p> <p>自立の度合い</p> <p>能力（手先の器用さ、体力）</p>

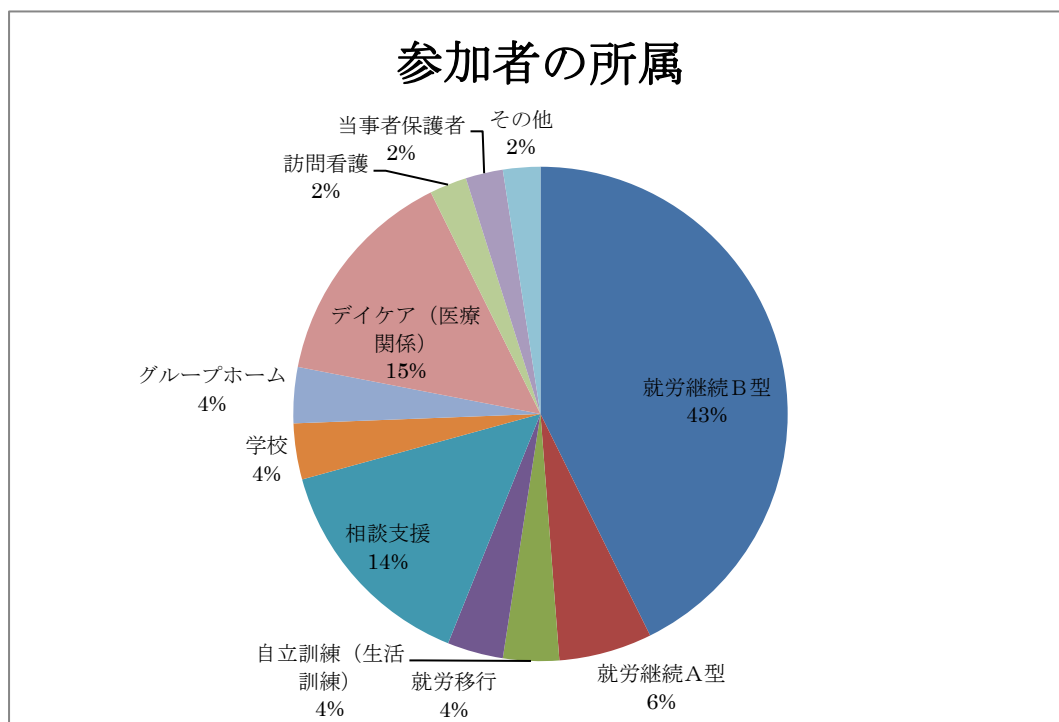
	<p>対人能力（得意な人、苦手な人、どの位コミュニケーションがとれるか、集団生活が送れるか）</p> <p>性格</p> <p><引き継ぐ際の連携></p> <p>カンファレンスの実施</p> <p>連携を密にして、医療の専門知識を活用してほしい（医療より）</p> <p>連携は、結局は人と人とのやり取りなので、担当者同士の話やすい関係づくりが大事であると感じた</p> <p><受け入れる側としてできること></p> <p>作業を通して働くことの意味や就労意欲を身につけてもらう</p> <p>定期面談</p>
講評	内容については別紙参照のこと（資料10）

第4回勉強会の最後に、全4回の総括を行なった。（資料11）

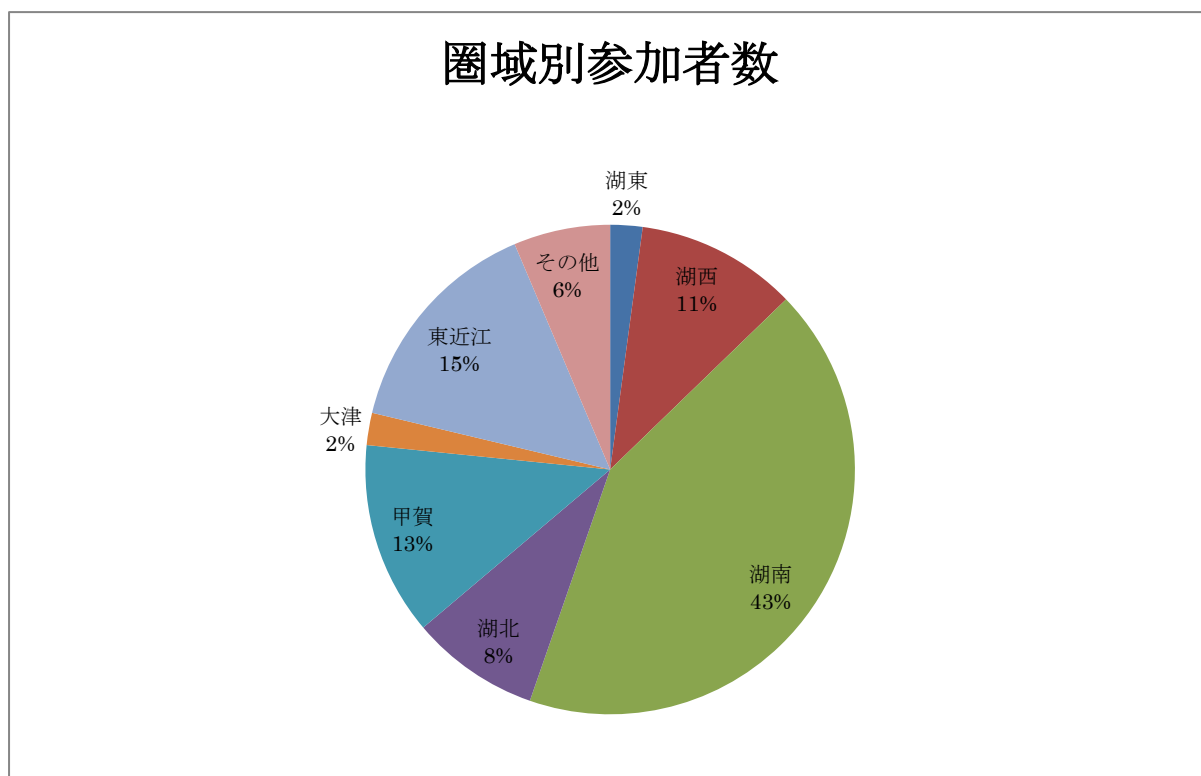
全4回で、計83名の参加があった。アンケートの結果は以下の通りである。

I 参加者の所属

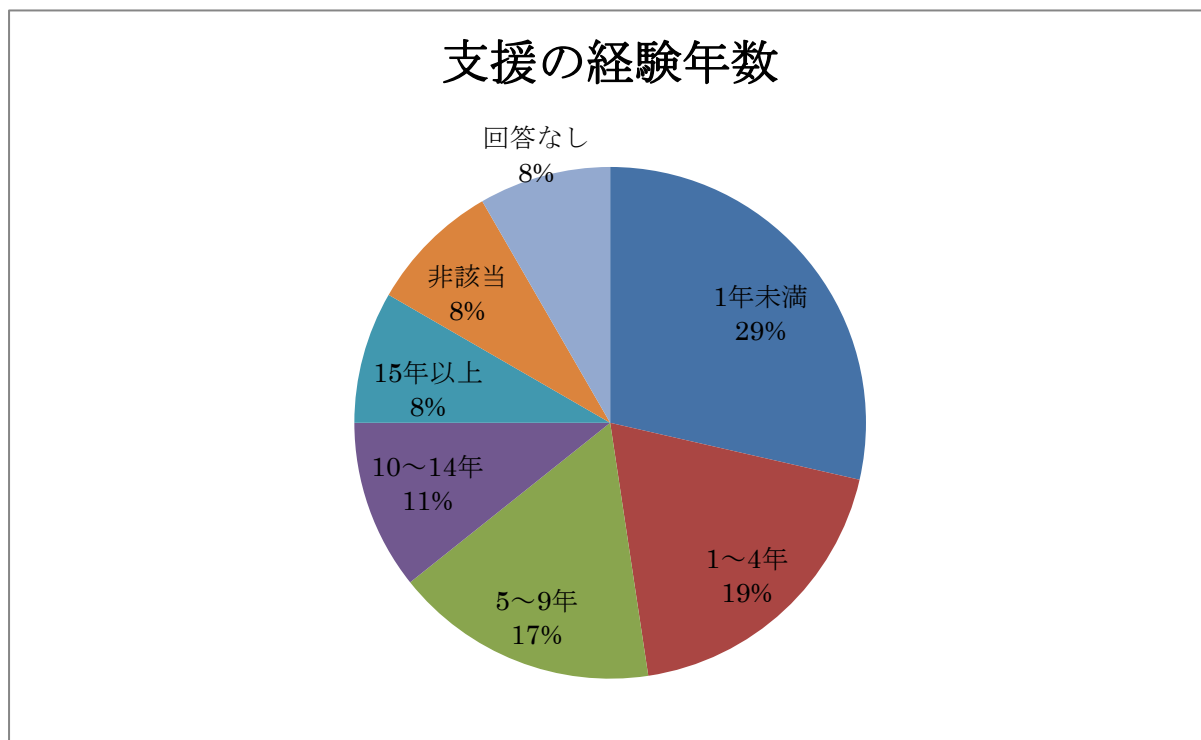
事業所



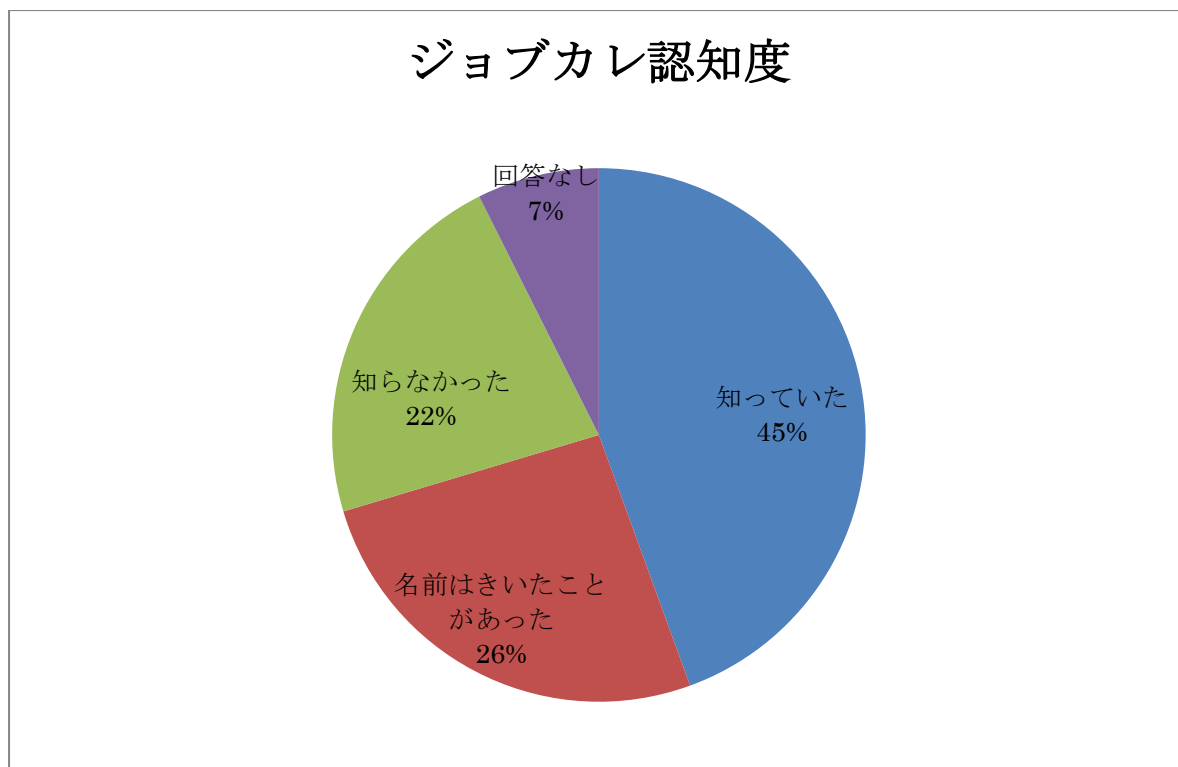
圏域



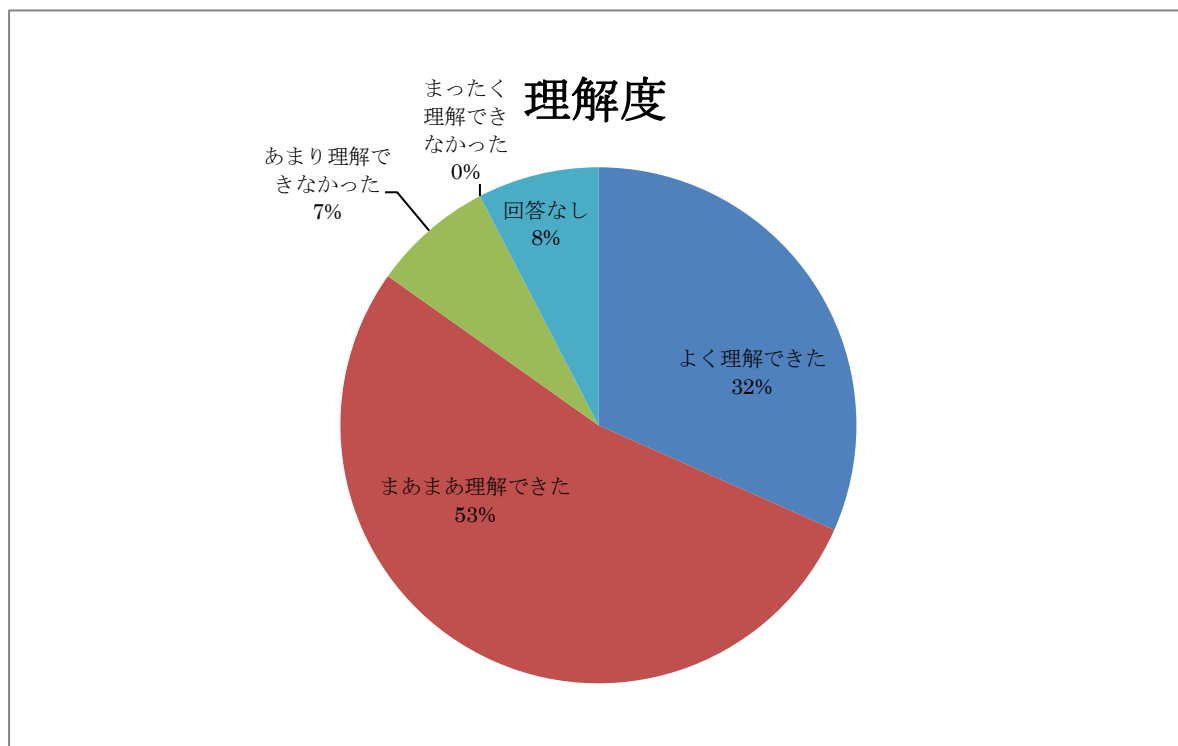
II 発達障害者支援の経験年数



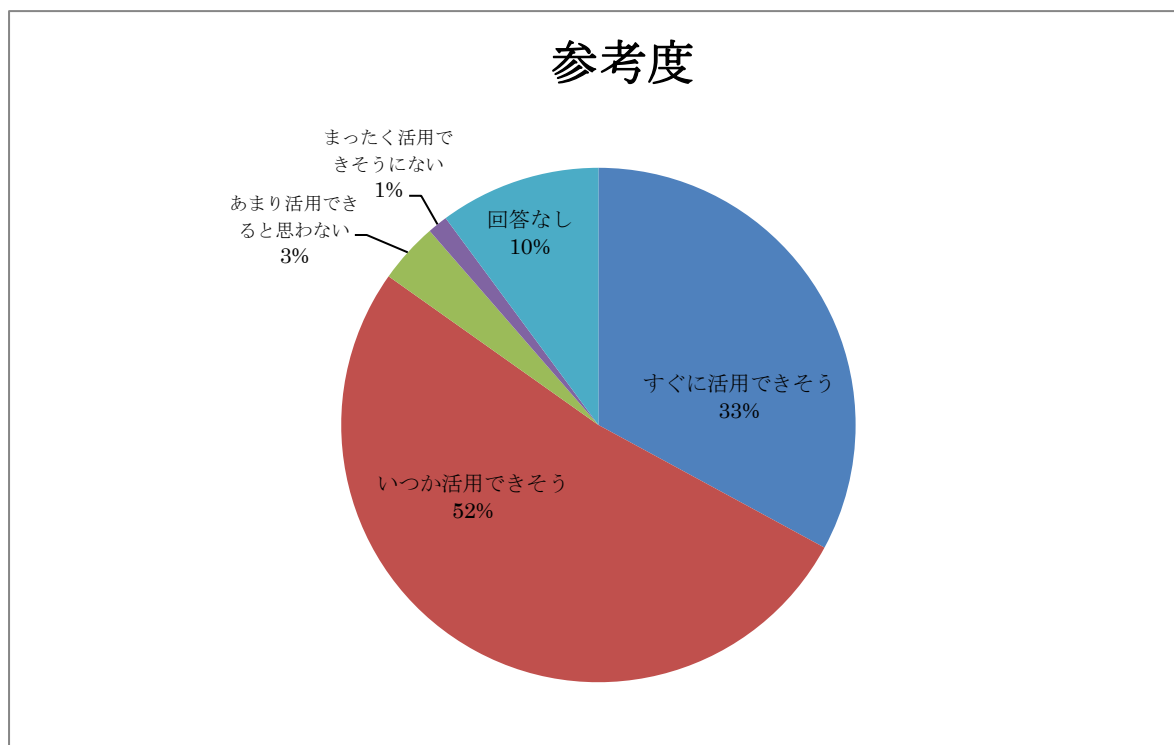
III ジョブカレのことを知っていたか



IV 勉強会内容について 理解度



参考度



V その他、意見・感想

(抜粋、要約)

○第1回

<感想>

- ・ いろいろな関係機関の人とつながりが持てて支援の幅が広がりそう、交流できてよかった。
- ・ 事例検討形式は良かったが、難しかった。
- ・ 楽しかった、わかりやすかった。
- ・ 今まで知らなかった考え方や知識を得ることができた。
- ・ 発表後、その意見を深めていけるともっと良かった。
- ・ 経験のある人の意見が聞けてよかった。
- ・ グループワークは苦手だが、今回は比較的主体的に取り組めた。
- ・ 多彩な事業所からの参加で興味深い話が聞けた。
- ・ 開催目的、趣旨をじっくり聞きたかった。
- ・ 先生のまとめが不満、各グループからの問いに答えたり、解説して欲しかった。
- ・ 沢山出た様々な意見に対して、まとめが不十分。
- ・ この勉強会での位置づけとして効果、検証は不要、問いを増やすことが重要。
- ・ 事例が難しくついていけなかった。
- ・ お金を多く渡すことはわかるが、今何の仕事をしているのか、それが就労につながるのか、本人が納得することが大切。
- ・ お金と時間でモチベーションを持たすだけでなく、発達の特性を踏まえて、本人が自己解決できる

トレーニングをすることが大切。

<発達障害者支援で困っていること、課題>

- ・発達障害の特性だけでなく、成育歴、経験などの部分で支援の難しさを感じている。
- ・本人がテキストで学んだことと日常生活とにズレが大きく、なかなか結び付けることが難しい。
- ・本人のこだわりが強くて外出できない、手詰まりを感じる。
- ・支援者で支援について話し合うが、課題を解決していくのが難しい。
- ・家族支援についてできることに限りがある。
- ・支援者同士が共有できる評価ツールがあるといい。
- ・人間関係のとり方をどう教えるか。
- ・規則を守れない人に納得できる説明の仕方がわからない。
- ・本人が良好な家族関係を築けない。
- ・毎日リセットされて何度も同じことを繰り返し伝えなければならない。忍耐が必要。
- ・主体性を持ってもらうことが難しい。
- ・言語性が低い方の意見を引き出すことが難しい。
- ・本人の意思表示がはっきりしない。
- ・利用者と接する際の言葉使い。
- ・環境が合えば集中できるが、合わないと攻撃的になる独り言が出てしまう。
- ・言葉や表現をどこまで理解されているかわからない。
- ・特性が様々でそれぞれに合わせた対応がバラバラで難しい。
- ・感情や意思が読みづらい。
- ・発達障害の人に対して、してはいけない、言ってはいけないことを考えすぎる。
- ・こちらの意図と違ったように受け取られそうで隙が見せられない、及び腰になる。
- ・お金や物、趣味にモチベーションのない人にどのように働きかけていけばいいか。

○第2回

<具体的に活用できそうなこと>

- ・本人中心支援を意識すること。
- ・本人の思いを再確認し、支援に生かしていく、一緒に考えていく。
- ・「目標の現実検討が難しい人」への支援についての工夫を、具体的に出したものから活用したい。
- ・グループワークの発表内容の中に、すぐに活用出来る発表があったので、試してみる
- ・「本人の言いなりになってみる」(本人のスタンスにあわせてみる)という支援の形もあるのだなと感じられた。
- ・何がしたいのか? 何が抜けるのか? を言語化することは意識して活用したい。
- ・支援の考え方について、医療以外の支援者と関わることでのどのような視点を持って支援されているのか話を聞くことができた。
- ・本人の特性だけでなく、本人のことを知りたいという気持ちを持って支援していきたい。
- ・本人に対する再アセスメント、本人の意志の確認、それを通じての支援再構築。

- ・アセスメント、目標の共有化、本人を動かす。
- ・本人がやってみたいことをやってみてもらって、そのうえで世の中で守らないといけないルールがあるということを伝えていくことは実践していきたい。
- ・徹底して行動を分析してみることに。
- ・本人の強みを見つけ本人と話し合っアセスメントを作成し、支援に繋げていきたい。

<感想>

- ・いい刺激を頂いた。
- ・もう少し時間がほしい。
- ・すすめ方がわかりにくかった。
- ・具体的取り組み事例の発表時間がもう少し欲しい。
- ・事例を見ていく中で具体的な支援、考え方の方法を考えることができた。
- ・前回より事例が身近に感じられ、共感できた。
- ・事例検討をする際に、生活歴がないと検討が難しい。
- ・大変興味深い内容で今後活用できそう。
- ・普段の自分の行っている支援の中でも、共通する課題があり、とても勉強になった。
- ・様々な機関とのグループワークができてよかった。
- ・普段、医療の中で仕事をしているので、他の機関の方の意見が新鮮。
- ・利用者にあった作業を提供できる事業所があることがうらやましい。
- ・普段会ったことのない事業所の方と会えてよかった。
- ・ADHD、自閉症スペクトラムの子どもと親として参加させてもらった。今回は、子どもと事例を重ねながら、勉強することができた。今後も参考にしながら子どものサポートをしていきたいと思う。

○第3回

<具体的に活用できそうなこと>

- ・その人を知ってもらうために診断名で伝えるのではなく、本人の特性を伝えることが大事ということ。
- ・学んだ対処法を事業所内で形を変えて活用してみたい。
- ・イライラを爆発させてしまう利用者さんに今回の事例を参考に対応してみたい。
- ・「こうしたらこうなった」という行動の確認とクールダウンの方法など、イライラの分析を本人と行っていくことは必要。
- ・行動と気持ちの関係性を本人と整理していくことが大切。
- ・企業側への障害特性の理解を促すことが必要である。
- ・仕事が出来ているという具体的な内容を本人に伝えることで、自分も役に立っている、必要とされているという自己肯定感の醸成につながるのではないかと。
- ・行動分析的な見解が問題行動のアプローチという内容が参考になる。
- ・感情に対して感情で返すのではなく、行動に着目していく視点は大切。
- ・本人と一緒に感情や行動の整理をし、解決の方向性を探る事。

- ・代替行動も本人と考えること。

<感想>

- ・学校卒業後も支援を続けておられる先生に出会えた K さんは幸せな方だと思った。
- ・グループワークでたくさんの意見が聞けて勉強になった。
- ・問題行動を行なうことで、本人が何を求めているのかという視点が新鮮だった。
- ・グループワークで出てきた疑問を聞いたことが良かった。
- ・ジョブカレの視点から…という発表は1つの指針が示されていたので良かった。

○第4回

<感想>

- ・情報の伝達や引き継ぎや連携について問題意識、改善意識を持っておられる医療機関の方がおられる事が知れてよかった。
- ・福祉と医療の連携には難しい点もあるとは思いますが、当事者にとって、両者が距離を詰めていくことが必要と感じた。
- ・医療との連携についてはあまり考えたことがなかったので、考える良い機会になった。
- ・前回と違った角度からのグループワークだった。
- ・人とのつながりやコミュニケーションの必要性を痛感した。
- ・グループワークでたくさんの意見が出てとても参考になった。
- ・利用者の情報はあらゆる角度から得なければならないなと思った。
- ・多方面の関係機関の人と知り合い、連絡・相談ができるようになればいいと思った。
- ・発達障害に関する自身の知識や経験が不十分であったので今回の研修は有意義であった。
- ・発達障害に関する学習を深めたいという良いきっかけになった。
- ・欲しい情報はどのようなアセスメントを取ればいいのかという視点を考える良い機会になった。活かしていきたい。
- ・顔の見える関係づくり、お互いの機関の対象や機能（強み）を知っていくことが大切。
- ・研修会は知識を得る場、考えを深める場と言うだけでなくネットワークづくりの場でもあり、日頃の悩みや課題をざっくばらんに話せる場と改めて感じた。
- ・外部研修で、他機関同士顔を合わせ、つながりを作って連携しやすくすることが大事だと感じた。

③事業所の訪問や勉強会を通して、発達障害者を支援するにあたって支援者が一番苦慮しているのが、対人関係や意思疎通等のコミュニケーションの部分であることを改めて認識できた。人の気持ちを考えられない、自分の意見を押し通そうとする、伝えたことを理解できていないかわからない、主体性がない等の共通の課題が挙がっている。コミュニケーションスキルは、短時間で習得するのが難しく、また障害特性上、習得自体が非常に困難であるが、就労や地域移行のために必要なスキルを中心に訓練して行けるよう、ジョブカレでは、今年度、プログラムの見直しを行なった。訓練開始前には必ず、これから行なうプログラムの目的と効果を伝え、日常生活にどう生かしていけばよいかを具体的に説明する。また、利用者との普段の関わりの中で、訓練したことが生かせるような場面がある時は、都度、今のこの

場面が、この前行なった訓練を活かせる場面であるということを伝えるようにしており、訓練したことと生活場面のひもづけを日々行っている。プログラム内容の詳細は以下の通りである。

(プログラム内容)

分類	プログラム名	概要・使用文献
		目的・効果
朝活動	朝のコグトレ	「1日5分!教室で使えるコグトレ」
		1日1つずつ、認知トレーニングを行い、注意力、感情コントロール、危険察知、人との接し方、問題解決、身体をうまく使うことを身につけていく。
	きょうの新聞	自分の気になった新聞記事を要約して発表する。
		自分の興味を知り、それを人に伝える。文章をまとめることで認知機能を高める。
	パソコン練習	エクセル、ワード、パワーポイント等を練習する。
文字入力、エクセル、ワード、パワーポイントを各人のレベルに合わせて練習し、就労に生かす。		
ワークサンプル	OA作業、事務、組立等。	
	実務訓練を行なう。	
生活体験プログラム	調理実習準備(食事にあつくために)	調理実習のための話し合い、下調べ、スケジュール組み立て等。
		何を作るのかを話し合う場で、自分の意見を他者に伝え、他者の意見を聞く。また、意見が食い違った時の他者との折り合いのつけ方、気持ちの整理の仕方等を学ぶ。他者と協力しながら作り方の下調べや、予算立て、スケジュールの組み立て、役割分担を行なう。
	調理実習(作って食べよう)	話し合っ決めてメニューを実際に調理する。
		自炊の訓練。自分の役割をこなし、かつ周りを見ながら動く。手順にそって作業する練習。他者と一緒に食事をする時のマナーを学ぶ。
	コグトレ(身体を知ろう)	「不器用な子どもたちへの認知作業トレーニング」
		身体の使い方の苦手な部分を知る。身体の動かし方を訓練する。
	あたまの体操	「コグトレ みる・きく・想像するため認知機能強化トレーニング」 「教室で使えるコグトレ」
認知機能(記憶、言語理解、注意、知覚、推論・判断)をのばすトレーニング。		
みんなで企画しよう!企画編	みんなで活動することを企画、計画する。	
	何の活動をどうやって行なうのかを話し合う場で、自分の意見を他者に伝え、他者の意見を聞く。また、意見が食い違った時の他者との折り合いのつけ方、気持ちの整理の仕方等を学ぶ。他者と協力しながら下調べや、予算立て、スケジュールの組み立て、役割分担を行なう。	

	みんなで企画しよう！実践編	みんなで企画、計画したことを実行する。 自分の役割を責任を持って果たす。集団行動を行なう。余暇活動の体験。
	生活術を学ぼう 生活のあれこれ やってみよう	金銭管理、インターネットの使い方、社会資源の活用法、クーリングオフ等生活するうえで必要なことを学ぶ。簡単な裁縫、修繕等身につける。 生活するために知っておいた方がよいスキルを学ぶ。
	太極拳	講師より太極拳を習う。 自分の体を知る、感じる。他者の動きを真似ることで認知機能を高める。
	スポーツ(運動しよう)	スポーツ 体力作り。身体を動かすことを楽しむ。チームプレーを行なう。
	リラックスしよう	リラクゼーション。「発達障害者のためのリラクゼーション技能トレーニング」 ストレス・疲労のセルフモニタリングと対処方法を学ぶ。
	就労準備訓練プログラム	ビジネスマナー
ハローワークセミナー		面接会に合わせて、ハローワークで開催されるセミナーに参加する。 外部講師によるセミナーに参加することで、就職への意識を高める。履歴書作成、面接のスキルを向上させる。ハローワークの利用の仕方、求人票の見方等を知る。
働くためのスキル獲得！		メモの取り方、ほうれんそう、指示の受け方等学ぶ。 働くために必要なスキルを学ぶ。
対人技能トレーニング(職場でのおつき合い)		「発達障害者のための職場対人技能トレーニング(JST)」 職場における基本的な対人マナー等について、ロールプレイや意見交換を行いながら学ぶ。
先輩の話を聞こう		就職した卒業生の体験談を聞く。 実際に働いている先輩の体験談や思いを聞くことで、自分の就職へのイメージを具体的にする。ピアカウンセリング効果。
オレナビ！自分をナビゲーション		自分の取り扱い説明書を作成し、随時更新していく。 自分の得意・不得意、特徴、配慮してほしいこと等を文章にしてまとめておき、実習や就職の際に役立てる。自己理解を深める。自分のことを相手に伝える。随時更新することで、自分の変化を知る。
企業見学(色々な仕事を知ろう)		職場見学。 色々な仕事があることを知る。見学して、自分がその仕事をやれそうか、またやってみたいか考える。
企業実習(企業で働くとは?)		各人のレベル、状態に合わせて、スタッフ同行か単独での企業内実習を行なう。 実際の企業で働くことで、就職することのイメージをつかむ。企業の中でどうふるまえばよいか(ほうれんそうの仕方、休憩時間の過ごし方等)を

		スタッフのモデリングを見て身につける。企業の方からの客観的な評価をもらう。就職の模擬練習。
	面接会に参加しよう	面接会参加。 就職活動を行なう。
作業	お金を稼ぐとは？	内職（シール貼り等下請け作業） 実際の作業を通して、ほうれんそう等就職した際に必要なスキルを身につける。集中して作業に取り組む。仕事をしてお金を稼ぐということを体験する。仕事をするためのイメージを作る。
	むかしの仕事	ポスティング。 体力作り。仕事をしてお金を稼ぐということを体験する。
	畑（作物を作ろう）	農作業 体力作り。仕事をしてお金を稼ぐということを体験する。土に触れることでのリラクゼーション効果。
	アンゲーム	でたカードのお題に従って話をする。 自分のことを話す。相手の話を聞く。
コミュニケーションプログラム	サイコロゲーム（何がでるか？）	サイコロのお題にそって話をする。聞いている人は、その話の中でよかったところを挙げる。 自分のことを話す。自分の興味外のことについても話をする。相手の話を聞き、よいところを見つける。他者から承認されることによって、自己肯定感を高める。
	グループワーク（みんなで話し合おう！みんなで考えよう！）	生活、コミュニケーション、社会等様々なお題についてグループで話し合いや演習等を行なう。 「自立を支援する社会生活力プログラム・マニュアル」 自分の考えを話す。相手の話を聞く。ルール（批判しない、積極的に参加する、言いたくないことは言わなくてもよい等）に従って話し合う。意見交換をする中で、お互いの経験を分かちあう。社会性の向上。
	朗読劇（ザ・女優）	朗読劇を行なう。 他者の感情を理解する（なぜこのセリフを言うのか、この感情表現になるのか等考える）。仲間同士のコミュニケーション。
	問題解決トレーニング（問題が起こったら？）	「発達障害者のための問題解決技能トレーニング」 問題の発生状況や原因を把握し、それを適切に他者に伝える。自分の陥りやすい思考や行動の特徴を知る。
	意思決定トレーニング（自分で選ぼう、自分で決めよう）	「知的障害・発達障害の人たちのための意思決定と意思決定支援」 自分の気持ちを知り自分で決める。意思決定を積み重ねることで自己理解を深める。
	感情コントロール（穏やかに過ご	アンガーコントロールを中心に、感情コントロールの方法を学ぶ。 「アンガーコントロール支援～講習編～」

	しましろう)	自分の感情に気付き、把握する。適切な感情表現の仕方を学ぶ。感情のコントロール方法を学ぶ。
	勉強会(人間関係10のルール)	「自閉症スペクトラム障害のある人が才能をいかすための人間関係10のルール」 当事者の書いた書籍を読み解きながら、人間関係を円滑に進める方法を学ぶ。自己理解、振り返りを促す。

*朝活動は、毎日9:00～10:00に、ローテーションで行なっている。

また、障害特性として、自分で見通しを立てるのが苦手であったり、記憶しておくのが苦手であったりするので、自分の現状、見通しを可視化できるように、書き込み式の表を作成し、長期目標、中期目標、短期目標等を記入している。目標については、できるだけ本人が考えたものにし、それが現状にそぐわないものであっても否定せず、どうしたらそれが達成できるかということを話し合い、一緒にステップを組み立てていくようにしている。(資料12)

(2) 生活支援体制ネットワーク構築事業

《概要》

県内各圏域の自立支援協議会(発達障害者支援部会)に参加し、他圏域での情報共有や、意見交換等を行なう。

《実施状況》

今年度の参加状況は下の表にある通りである。

	圏域	部会	参加日	内容等
1	大津	自立支援協議会発達障害者支援部会	5/12	各事業所の課題について意見交換会。
2	甲賀	自立支援協議会相談支援部会	6/27	プロジェクトについて打合せ。
3	東近江	サービス調整会議発達障害者支援体制整備部会	6/21	事例検討(福祉の介入が難しいケース)
4			9/20	事例検討(ひきこもりの人への訪問)
5			12/15	事例検討(ひきこもりから福祉につながったケース)
6			3/5	事例検討(ひきこもりから就職へ至ったケース)
7	湖北	自立支援協議会発達しょうがい者支援部会	6/19	各事業所の課題について意見交換会。
8			8/22	
9	高島	自立支援協議会発達障害部会	4/24	各事業所の課題について意見交換会。
10			6/26	

4. 考察(今後の課題と展望)

今年度、就労・生活支援プログラムの普及の中で新たに実施した勉強会では、80名の参加があった。この勉強会は、実際に事業所等で困難ケースとして捉えられている対象者の課題をグループワークにより検討した。そして、その検討結果を自施設に持ち帰り、実際にその支援を行なってもらい、支援結果を次回の勉強会で報告してもらう形式を試みてみた。実際に検討した結果を施設に持ち帰り実施すると

ということで、行き詰まりを感じているケースに新たな視点で切り込んでいくこと、そのためには、支援計画や支援方法を明確にし、より具体的な支援方法を考えることを目的とした。個別支援計画を作成する時に、難しい抽象的な言葉を使って作成したり、毎回同じ計画を立て続けるというようなことが見られることもあるのではないだろうか。ジョブカレでも以前はそのような個別支援計画を作っており、計画と実際の支援がリンクしていないことも多かった。作成する側としては、それらしいものができたという満足感があり、課題がずっと同じだから同じ計画になるというような道理があるのだが、利用者にとっては意味の分からないもの、同じ支援を漫然と続けられているというような印象になる恐れがある。本来なら支援の指針となるべき大切なものである個別支援計画書を、より実際に即した、利用者、職員誰もがそれにそって動くことで、新しい可能性が見えてくるものに作成できるのが理想である。そのためにも、色々な角度から支援を検討し、具体的にどうしたらよいのかを考えるスキルを身につけていく必要がある。

事業所で行われるケース検討は、さまざまな情報の中から支援に必要な情報をピックアップしていくと考えられるが、今回の事例検討勉強会は、限られた情報の中から、支援を組み立てるということになり、受講生からは情報量が少ないとの意見も聞かれた。しかし、情報は多ければいいのではないということ、支援に必要な情報量は、実はそれほど多くなくても大丈夫であること等を体験してもらうことも目的としていた。対象者の課題は何であるのか、そのために必要な情報は何なのかを見極める力も、支援していく上では大切なものであり、今後われわれが身につけていかねばならない力である。

この勉強会を実施して感じた課題は、支援経験のある受講生と経験の少ない受講生とが同じグループに入っており、経験の少ない受講生が他の人の意見を聞く役に回ってしまったというようなことがあった。また、困難事例が課題であったため、経験や専門性のある受講生がグループに入っていることでスムーズに検討できたり、その逆もあつたりと、ばらつきが大きかったことも挙げられる。

事業所訪問による、プログラム普及の課題は、ジョブカレの成果を、どのように事業所で生かしてもらうかということである。プログラムを各事業所でどのようにアレンジして、その事業所のカラーにマッチした形で提供するかということだと考えられる。それぞれのプログラムの目的を変えないまま、提供できるか、ということになる。そこまで踏み込んでの事業所訪問を行うことができればよいのだが、事業所に入り込むことが難しいケースもあり、困難事例の対応についての検討を一緒に行うことに留まることが多かった。

事業所訪問や勉強会の中で、生活に課題がある人への支援をどうしたらよいかという課題が挙がっていた。ジョブカレは、自立訓練（生活訓練）と宿泊型自立訓練を実施しており、有期限のサービスとなる。現在20名が卒業していったが、その内の8名がひとり暮らしをしている。それ以外の人、グループホームや自宅など地域へ住まいを移しているが、その生活が順調な人ばかりではない。今後は、ジョブカレを卒業した利用者のフォローアップを行ってきたことを形にして、地域で暮らすためにどんな支援が必要か、どういった支援があると生活の困り感を軽減できるかを改めて言語化する作業をおこなうことで、高機能発達障害の人たちの支援の充実を図ることができると考えている。また、支援者のレベルに合った勉強会を開催し、アセスメントの視点の普及や、他事業所との意見交換を通して、支援者のスキルアップを図り、高機能発達障害者に対応できる環境の整備を進めていきたい。

【添付資料】

- *資料1 発達障害者支援勉強会案内
- *資料2 状態評価シート 第1回用
- *資料3 スキル評価シート（就労移行のための総合支援シート）第1回用
- *資料4 スキル評価シート（ひとり暮らしへの移行のための総合支援シート）第2回用
- *資料5 個別支援計画 第1回用
- *資料6 状態評価シート
- *資料7 スキル評価シート（就労移行のための総合支援シート）
- *資料8 スキル評価シート（ひとり暮らしへの移行のための総合支援シート）
- *資料9 第3回勉強会資料
- *資料10 第4回勉強会資料
- *資料11 勉強会総括資料
- *資料12 個人目標記入シート